



**HOFU**  
Institute of Gastroenterology

い  
て  
ふ



- 「第3回 YAMAGUCHI 消化器疾患研究会」を開催しました
- 胃癌とピロリ菌
- 「腸活コラム⑩」 和して同ぜず
- 医療ガス安全講習会を開催しました

2025  
2月

ICHO

NO. 93



## 「第3回 YAMAGUCHI 消化器疾患研究会」を開催しました

広島大学病院 消化器外科  
防府消化器病センター内視鏡外科講座助教 佐伯吉弘

2025年1月17日、防府グランドホテルにおいて第3回 YAMAGUCHI消化器疾患研究会が開催され、胃癌の外科治療に関してお話しさせていただきました。

胃癌手術が定型化され治癒するようになった近年では、医療の流れは縮小手術や低侵襲手術におけるエビデンスの構築にシフトチェンジしております。傷の小さな腹腔鏡手術は見た目の整容性だけではなく、出血量が少ないため、患者さんの負担も少なく術後の回復も早いことが、多くの臨床試験から証明されています。また科学的にも腹腔鏡手術では開腹手術に比較し術後の患者さんで生じる炎症が低いことがわかっています。このような背景から現在では、早期胃癌のみでなく進行胃癌においても腹腔鏡手術が推奨される時代となってきました。

当院では腹腔鏡手術を胃癌手術の84.4%(2021年)で取り入れており、最新の腹腔鏡器具を用いて手術を行うことが可能です。また、2021年～2023年の3年間で胃癌202症例に対して内視鏡治療を78症例、外科治療を78症例、切除不能進行・再発胃癌の診療を46症例で行っています。

初診からの治療介入の期間においては、内視鏡治療が28.5日(1-58日)、外科治療が21.5日(6-64日)、化学療法が12日(6-33日)と迅速に対応しています。内視鏡治療では受診前に診断がついている方は、初診翌日に治療を行うプログラムもあり、7症例が翌日に治療を受けられていました。これらの内容を開業医の先生方と共有することができ、非常に実りある研究会となりました。



広島大学病院 防府消化器病センター内視鏡外科講座助教 佐伯吉弘先生



広島大学病院がん化学療法科教授 岡本渉先生

佐伯吉弘先生には「胃癌における外科治療」と題して、広島大学病院における最新のロボット手術の現状とメリットなどを、また、岡本渉先生には「胃癌治療の最新情報と地区における医療連携」と題して胃癌化学療法の最新情報に加えて、がん治療においても重要な要素となる地域における医療連携の在り方についてご紹介いただきました。

防府消化器病センターは  
胃癌手術の 84.4%を  
腹腔鏡手術で行っています



三浦修病院長



奥田浩准教授



活発に質疑応答が行われました



今回の研究会は「胃癌」をテーマとし、両輪である外科治療と化学療法という二つの側面からのアプローチでした。当院では、今後も地域の先生方との連携を更に深め、がん治療に取り組んでまいりたいと思います。ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。

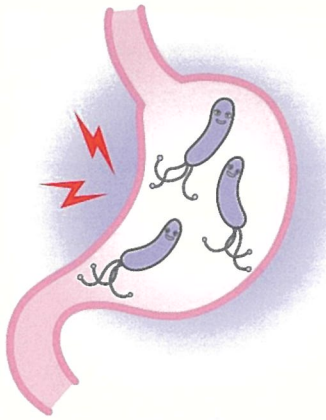


## 胃癌とピロリ菌

診療部副部長 釘宮成二



胃癌治療は、日進月歩ではありますが、胃癌を予防すること、早期発見することが重要です。胃癌の発症リスクには、①食塩・塩蔵食品②喫煙③ヘリコバクター・ピロリ菌感染などがあると言われております。このうちピロリ菌感染に対しては、除菌治療を行うことで、リスク軽減につながります。



当院では、昨年1年間で260人が除菌治療を受け、97%の患者さんが除菌に成功しています。具体的には、以下の方法で行います。

- ①胃内視鏡検査(胃カメラ)を行い、胃の萎縮や炎症を評価します。
- ②血液検査や生検検査などで、ピロリ菌の存在の有無を確認します。
- ③胃薬を1種類、抗生剤を2種類、1週間、内服していただきます。
- ④除菌判定を行うことで、除菌が確定します。

胃カメラはつらい…、これを少しでも解消するために当院では、鎮静(眠りながら)での検査、細いカメラ、鼻からのカメラなど工夫をしております。主治医の先生と相談しながら、適切な間隔で胃カメラを受けていただけると幸いです。

しかしながら、除菌後でも胃癌の発症リスクはゼロとはなりません。定期的な胃内視鏡検査を行うことが重要となります。早期癌で発見することができれば、胃を残す治療が可能となります。

## 腸活コラム 11

### 和して同ぜず！

外敵から大切な身体を守ってくれる「免疫」。一方、潰瘍性大腸炎やクローン病のような自己免疫疾患では、免疫システムがバランスを崩し、免疫細胞が自分の体を攻撃してしまいます。これらの疾患の発生のしくみは、未だ不明なところが多いものの、これら免疫細胞の暴走を止めるシステムが弱いのではないかと考えられています。

免疫細胞のひとつに制御性T細胞と呼ばれるものがあり、免疫の暴走を制御する働きを担っています。略して「Tレグ細胞」と呼びますが、コラムでも再々取り上げました短鎖脂肪酸の1種である「酪酸」は、この「Tレグ細胞」の成熟を促進するといわれています。

炎症性腸疾患の患者さんでは、これらの酪酸菌が少ないという報告もあります。何事もバランスが崩れるといいことはありません。このほか、新型コロナの重症化でキーとなるサイトカインストームという現象にも免疫の暴走が関係しており、これらの患者さんでも酪酸菌が減少しているという報告もあります。酪酸菌の影響は、語りつくせません。いずれにしても、腸活は万病に影響する可能性があるといっても過言ではないでしょうか。免疫システムも「和して同ぜず」で、自らの役割信念に基づいて働きつつも、調和を大切にしてほしいものです。





## 医療ガス安全講習会を開催しました

医療ガスを安全に取り扱うための院内研修を毎年開催しています。4月、10月には新採用者を対象に医療ガスの基本について研修を行いました。今回1月は医療ガスに携わる多職種が参加。「ヒヤリハット事例による安全確認」と題して、身近に起こりうる事故例を中心にちょっとした不注意や勘違い、知識不足が患者さんや自分自身を危険にさらすことのないよう、しっかりと学習しました。



## 2月の外来診療予定表

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1診	三浦	-	三浦	奥田	奥田	外来は休診ですが、医療機関からの紹介患者さんのみ常勤の医師が対応します。
	2診	外山	外山	-	外山	外山	
	3診	釘宮	釘宮	釘宮	-	釘宮	
	5診	藤原	竹尾	竹尾	竹尾	-	
	6診	矢野	矢野	-	平田	佐伯	
午後		丸岡	平田	三浦	三浦	三浦	休診
	専門外来 (予約制)	専門外来は第1、3、5週の金曜日です。ご予約・お問い合わせは、☎0835-22-3339(平日 14時~17時)までお願いします。				食道・女性大腸 藤原	

診療日時	受付時間	診療時間
午前(月~金)	8:00~11:00	8:30~
午後(月~金)	13:30~16:30	14:00~

- 都合により代診になる場合があります。
- 金曜日の午後に行う専門外来「食道・女性大腸」はそれぞれ「食道がん外来」「女性内視鏡検査」のことです。
- 出張などで、担当医が不在の場合もあります。受付またはお電話でお問い合わせください。

## Editorial Note

節分を迎えるたびに鬼を考えます。節分には邪気の化身として鬼を祓います。地獄の描写では、獄卒として鬼は閻魔様のもと、罪深き亡者を嬉々とし苦しめます。「なまはげ」は、子供を泣かして回る見た目も邪鬼の様ですが、実は来訪神で、五穀豊穡などをもたらす使者として謹んで出迎えられます。囲炉裏に張り付いて動かない怠け者を懲らしめる「なもみ剥ぎ」の役割もあったようです。罪深きものや怠け者視点でいくと、鬼も神も怖い存在になりますね。何事も多様な側面があるということでしょうか。 事務局長 栗林 左知

## 一般財団法人 防府消化器病センター

山口県防府市駅南町 14-33 TEL: 0835-22-3339(代表)

【電車・バス】JR 防府駅よりバス2分 防府市役所前下車または JR 防府駅より徒歩 10分

【お車】山陽自動車道 防府東または防府西インターから 10分

公式サイト



Instagram



<https://www.hofu-icho.or.jp>